

平成29年度第2回千葉地域医療構想調整会議 開催結果

1 日時 平成29年12月20日（水）午後7時から午後7時45分まで

2 場所 千葉市総合保健医療センター5階大会議室

3 出席委員

委員（代理出席を含む）：総数28名中26名出席

入江委員、斎藤委員、中村（眞）委員、阿部委員、古川委員、村山委員、金親委員、中村（達）委員、星野委員、杉崎委員、高梨委員、木村委員、一戸委員、景山委員、鈴木委員、杉浦委員、山本（修）委員代理生坂氏、小林委員、星岡委員、山本（恭）委員、寺井委員、鶴岡委員、上野委員、平山委員、竹川委員、織田委員

4 会議次第

（1）開会

（2）健康福祉政策課長あいさつ

（3）議事

公的医療機関が地域において担う役割について

（4）閉会

5 議事概要

○ 事務局説明

資料1～3について事務局から説明

○ 公的医療機関等からの説明

資料2により各医療機関から、それぞれが地域で担う役割等について説明

< 国立病院機構千葉医療センター >

当院は地域がん診療連携拠点病院として今後も対応していくとともに、緩和病棟が千葉市内で少ない状況であるため、今後の病床の立ち上げや運営を検討していく。

また、地域医療支援病院として、各診療科の急性期機能を担っていく。

さらに、当院はエイズ治療拠点病院であることから、その医療の提供を充実させていくとともに、地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関としての機能維持を図っていく。

< 地域医療推進機構千葉病院 >

当院は透析をメインとしている199床の病院である。今後については、合併症を持った透析患者をメインに診ていくことで考えている。

また、当院には建替計画があつて、2025年には出来上がっている形を検討している。現在72床で外来の透析を行っているが、その時には100床に拡大し

て、腎疾患全経過に渡って診断及び治療のできる特色をさらに推進し、千葉県下の透析の中核的病院を目指している。

さらに、老人保健施設を併設していることから、最終的にはHCUから急性期、包括ケア、老健、在宅、訪問看護と、一連の流れを作ることを目標としている。

新病院は急性期100床、HCU8床、包括ケア52床のトータル160床となる。現在199床のため、39床を返還することを検討している。

<千葉大学医学部附属病院>

当院は、高度急性期に特化した形で進んでいこうと考えている。眼科など高度急性期の基準に満たない病床があるため急性期が66床、それ以外は全て高度急性期で報告している。高度急性期の形態を維持するために、手術室の増築やデイスার্जेリー用の部屋などを現在整備している。また、3次救急を担えるように整備を進めているところである。

それに加えて、人材の輩出及び卒後教育の強化にも取り組んでいる。看護師、ソーシャルワーカー、検査技師等についても医師とともに卒後教育を行っていくため、現在様々なプランを整備している。

地域の医療機関では困ってしまう病態の患者を受入できるような体制を整備していきたいと考えている。

<国立病院機構千葉東病院>

当院は一般病床402床、結核病床19床の合計421床である。急性期が50床、回復期が156床、慢性期が196床で、回復期・慢性期が主体の病院である。先ほどのアンケート結果でも回復期・慢性期が足りないということであったが、それに沿って回復期・慢性期の中でも専門性のある機能を担っていく。他の医療機関ではやらないようなセーフティネット系の医療に特化した形で、重心、神経、アレルギー、難病、結核などを中心に、回復期・慢性期機能を維持していく。その他に腎疾患では、小児、透析、移植など幅広く受け入れられる形でやっていきたいと考えている。

<千葉メディカルセンター>

当院は5疾病5事業を念頭に置いて資料を作成した。5疾病のうち、がん、脳卒中、急性の心疾患については、高度急性期及び急性期を担っていく体制を整えている。その他の疾病については急性期医療を担っていきたいと考えている。

5事業に関して、当院は3年前に建て替えを行い免震構造や非常用電源なども比較的確保しているので、特に災害拠点病院等の指定は受けていないが、民間病院として大規模災害時に貢献できるよう、BCPの策定なども行っている。救急医療及び災害時の医療について力を入れていきたいと考えている。

その他、地域包括ケアシステムの中では、回復期、地域包括ケア、在宅医療の皆様と協力し、更に連携を深めて、良質な医療を提供できるようにしていきたい。

また、今後、当医療圏の病床数がどのようになるか分からないところもあるが、希望としては、高度急性期病床、急性期病床を少し増やしていくことができれば

とと思っている。

<千葉市立青葉病院>

当院は一般病床314床、精神病床60床、感染症病床6床の合計380床であり、一般病床のうち高度急性期は15床、残りの299床は急性期としている。

当院の役割としては、まず救急医療として、特に夜間救急、準夜帯・深夜帯の救急を受け入れることと、他院では受入が難しいような疾患の受入、また夜休診のバックアップとして内科と整形を中心とした二次輪番を組んでいる。

また、精神科としては、成人精神では身体疾患を持つ患者、児童精神では不登校などの患者を受け入れている。

その他、内科としては、血液内科で常時50～60人の入院患者を受け入れている、骨髄移植をはじめとした最先端の医療を提供している。

<千葉市立海浜病院>

当院は現在293床で、高度急性期が63床、急性期が230床という構成である。高度急性期の大部分はNICUで、この10月に15床から21床に増床している。

当院が果たすべき役割としては、周産期、それから小児医療ということで、現在、救急にかなり力を入れており、子どもの救急車が年間2千台を超えている。

さらに、今後、小児疾患を持った成人の医療ということで「移行期医療」に取り組む準備をしている。

また、地元の美浜区を中心とした、高齢者の医療を充実させていきたいと考えている。

構造的には、給排水の老朽化が非常に厳しい状態で、千葉市の中でも今後の再整備について検討していくことになっている。

<千葉リハビリテーションセンター>

当センターは、リハビリテーション医療施設が110床、医療型障害児入所施設が32床等で構成されていて、指定管理者制度により、社会福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団が管理運営を行っている。急性期が33床、回復期が50床、慢性期が159床であり、6年後も同数を見込んでいる。

県立施設として、重症心身障害児者、脊椎損傷や高次脳機能障害等の重度の障害児者に対し、高度な医療的ケアからリハビリテーション、社会復帰に向けた支援に至るまでの総合的な機能を担っている。

設置から40年近くが経過し、施設設備の老朽化が進んでいる。本年11月に策定された「千葉県県有建物長寿化計画」では、今後5年以内に建替に着手する施設として位置付けられたところである。施設の整備方針については、待機者が多くなっている状況等も踏まえて、今後関係機関や有識者等の意見を伺いながら、県立施設としての機能・役割や病床数等について十分に検討を行い、県民のニーズに対応できる施設の整備に取り組むこととしている。

<千葉県桜木園>

許可病床数は55床で、全て慢性期の病床として報告している。

今後担うべき役割としては、重症心身障害児者に対する専門医療を提供する体制を維持していくとともに、医療的ケアが必要な在宅の重症心身障害児者が地域で安心して暮らせるよう、外来診療において必要な医療を提供していく。

今後持つべき病床機能としては、重症心身障害児者医療に特化して、専門的な医療等を提供しており、今後もこの体制を維持することとしている。

今後見直すべき点等については、同種の病院や施設と連携して、入院・入所の必要性や緊急性の高い方を優先して受け入れることができるよう、千葉県重症心身障害連絡協議会を開催して、引き続き調整を図る必要があると考えている。

<千葉県救急医療センター>

当センターは一般病床100床で、高度急性期と急性期が大体半々である。全県対応の三次救命センターということ、県の唯一の高度救命救急センターとして、重症患者に対する医療を提供している。

今後更に力を入れていくこととして、県内13の救命センターの情報ネットワークの充実、また、二次と三次など少し幅の広い部分での情報ネットワークで救命救急がよりスムーズに進むよう、努力していきたいと考えている。

さらに災害医療についても、特に都市型の災害医療に対して今後とも力を尽くしていきたいと考えている。

長期的には今後、精神科医療センターと一体的な整備をする計画があり、精神疾患と身体疾患の両方を持っている患者に対する救急医療についても進めていきたいと考えている。

<千葉県がんセンター>

当センターは現在341床で、うち緩和病床が25床である。今後のがん患者の増加、さらに専門分化するがん医療に対応すべく、450床に増床して、現在建替工事を進めている。約2年半後の完成予定である。

がん医療の専門性をさらに深めるとともに、緩和ケアの病床も今の倍以上に増やすことで、地域のがん医療のみならず、緩和医療の充実も図っていきたい。

また、高齢化するがん患者を総合的に診療できるよう、現在、循環器の医師を増やしている。糖尿病など全般的な医療に対応できるような体制を構築している。

今後、地域との連携やがん専門医療者の育成にも、力を入れていく予定である。がん研究も進め、総合的ながん医療を提供できる体制を目指していきたい。

<千葉県精神科医療センター>

当院は精神病床50床の単科精神科病院で、精神科救急に特化した専門病院である。千葉県の精神科救急医療システム、全県下を対象とした救急システムの情報センターを担うとともに、各地で発生した様々な事例について当番病院への受診依頼等の差配を行っている。

加えて、全県下でも病床が確保できない場合や、触法患者に関する最後の砦と

しての機能を果たしている。

今後、救急医療センターと精神科医療センターが一体的整備という形で合併することになっている。それによって身体・精神の合併症患者に、これまで単科の精神科病院ではなかなか診れなかった面も対応できるようにしていきたいと思う。

加えて、当院では災害時に派遣する精神科医療チームも有している。救急医療センターのDMATチームと協働して、災害時の包括的・迅速な医療が提供できるように、そのようなハブ機能も担えるように計画しているところである。

<千葉県こども病院>

当院は224床の病院で、高度急性期33床、急性期171床、また現在20床を休床している。高度急性期はNICUが9床、GCU15床、ICU9床という内訳である。診療科は内科系、外科系を合わせて29の診療科を有している。

小児救急については、全県対応型の医療施設として三次救急を担うとともに、千葉市、山武長生夷隅、市原の二次救急も行っている。当院患者の35%が千葉医療圏からの患者である。

分娩については産科の医師の不足により、現在は休止している。

当院の果たすべき役割として、やはり全県対応型の小児専門の医療施設として、高度医療・専門医療をしっかりと提供していきたいと考えている。特に、新生児、乳児、幼児の先天性疾患などに対する外科的な手術にしっかりと取り組んでいきたい。内科についても難病や希少疾患を含む専門的医療を提供していきたい。

併せて、二次救急の補完についても役割を果たしていきたいと考えている。

○ 県病院局からの説明

千葉県がんセンターの建替、及び千葉県救急医療センターと精神科医療センターの一体的整備について、県病院局から説明

○ 意見・質疑応答

特になし

6 閉会 午後7時45分